

ファッションが持つ無限の組み合わせで あらゆる「垣根」を越えていく。 アンドエスティHDとWeOurが描く、 事業を通じて誰もが輝ける サステナブルなビジョン。

株式会社アンドエスティHD
コーポレート本部 サステナビリティ推進室長
兼 株式会社WeOur取締役
深川 智子

2005年新卒入社。店長、エリアマネジャー、支店長を経て2019年に経営企画室へ異動し、持続可能な社会と事業成長の両立を考慮したサステナビリティ経営を推進。2024年、サステナビリティ推進室の新設とともに同室室長に就任。2025年より株式会社WeOur取締役を兼任。

株式会社WeOur 代表取締役社長
高橋 朗

学生時代にアルバイトとして入社。店長を経て、自社ECの立ち上げ、マーケティング部門、アダストリア・イノベーションラボなど新規事業開発に従事。2020年に設立したグループ会社ADOORLINKのサーキュラー事業部長を務め、2025年、株式会社WeOur代表取締役社長に就任。

2025年3月、アンドエスティHDの特例子会社として発足した株式会社WeOur。サーキュラーエコノミー事業とビジネスサポート事業を軸に、社会課題解決とビジネスの両立を目指す新会社の挑戦は、グループ全体、そして社会にどのような価値をもたらすのか。WeOur代表取締役社長である高橋と、同社取締役でアンドエスティHDサステナビリティ推進室長でもある深川が、WeOurの事業を通じて生み出すシナジーや今後の展望について語ります。



アンドエスティHDグループに新会社WeOurが誕生。 サステナブル経営を、次なるステージへ。

— WeOur発足の経緯とビジョンについてお聞かせください。

高橋 WeOurの前身は、2013年に障がい者雇用の促進とグループ各社の業務サポートを目的に設立された、アダストリア・ゼネラルサポートという特例子会社です。昨今、サステナビリティやダイバーシティ＆インクルージョン

への関心が高まる中、従来のグループ内支援に留まらず、お客さまへのサービス提供も含めた新たな事業へと進化させ、さらなる企業価値向上を目指したいと考えました。そこで、当時その役割を担っていたADOORLINK（アドアーリンク）の事業を吸収する形で、2025年3月にWeOurが発足しました。

深川 グループ全体のサステナブル経営を加速させる、という点でも非常に重要なタイミングでした。WeOurでは、従業員の皆さんの働き方や担う業務の幅も広がりましたね。

高橋 私たちが掲げるビジョンは、障がいをも一つの個性として捉え、多様な方々が参画できる会社であり続けることです。「誰一人として取り残さない」という考えのもと、従業員一人ひとりの個性や特性を最大限に発揮できる働き方を目指しています。

例えば、これまでは事務作業や物流作業が中心でしたが、今では「OFF STORE（オフストア）」の店舗運営など、お客さまと直接関わる業務に至るまで、その領域を大きく広げています。

深川 アンドエスティHDグループでは、サステナビリティの重点テーマとして「環境を守る」「人を輝かせる」「地域と成長する」の3つを掲げています。WeOurは、サーキュラーエコノミー事業、多様な従業員の活躍支援、そして創業の地・水戸でのイベントを通じた地域貢献など、事業を通じてこれら3つのテーマすべてを体現している会社です。アンドエスティHDのサステナビリティ推進室でグループ全体の基本戦略や方針をディレクションし、WeOurが現場で力強く事業を展開していく、いわばグループ全体のサステナビリティにおける「実行部隊」であり、非常に心強い存在です。



高橋 まさにそのサステナビリティという点も含めて、9月からのホールディングス体制では、グループ全体の戦略と私たちWeOurの事業をいかにシームレスに連携させられるかが、より一層重要になると考えています。グループ方針に沿った事業をWeOurで新たに展開することにより、全体で大きなシナジーを発揮していきたいと考えています。

単なるリユースやアウトレットではない。 社会課題の解決と収益性を両立する循環型ビジネスモデル。

― 事業の柱の一つ、サーキュラーエコノミー事業について教えてください。

高橋 サーキュラーエコノミー事業では、環境負荷の少ないファッションビジネスを進めながらも、いかに収益モデルを確立できるかに重きを置いています。その中核を担うのが、私たちの店舗オフストアです。「オフ」には単なる「割引」ではなく、新品や中古品も含め、あらゆる境界線を「越えていく」という意味を込めました。オフストアでは、アダストリアをはじめとする各グループ会社のサンプル商品やシーズンアウト品をリーズナブルな価格で提供しています。お客さまには安さだけではなく、宝探しのような偶然の出会いや服を探すワクワク感といった、ご自身が来店されてこそ感じられる体験価値も大切にしていきたいというコンセプトです。

深川 境界線を越えていくというコンセプトは、WeOurが考える事業の在り方そのものを象徴していますね。2025年3月からは衣料品回収活動「Play Cycle!」もアップデートされ、お客さまから回収した衣料品をオフストア店舗で再販売する仕組みも整い、より循環の輪が広がりました。



オフストア アイオンタウン水戸南

高橋 この事業はアウトレットと捉えられることもありますが、私たちの考え方は少し違います。私たちが目指す循環型モデルは、服の生産量より、手にとっていただくお客さまの人数が上回る状態です。「Play Cycle!」で回収した衣料品を含め、まだ価値のある服を最後の一着まで市場で循環させ、お客さまが自然と循環活動に参加いただけるようになることが理想ですね。

深川 世代による差はありますが、そういった価値観は、特に若い世代のお客さまに響いているように感じます。私たちの姿勢がお客さまの共感を得られているという手応えは、少しずつ実感できるようになりましたね。

高橋 私は大学教員として教壇に立ちますが、学生たちのファッションは古着や新品にこだわるのではなく、自身が着用したいと思うものをシンプルに選ぶ傾向にあります。長年、ファッション業界は魅力的な新商品をいかに揃えるかというサプライチェーンで動いてきましたが、実はお客さまの方が一歩先のトレンドを把握している。私たちはその価値観の変化を、事業を通じて後押ししていく役割があると考えています。

深川 例えば、それがオフストアのようなリアル店舗でファッションを通じてお客さまとスタッフが対話し、私たちの取り組みを知っていただくことで叶えられたら嬉しいですね。

グループ全体の業務支援を通じて、
従業員自身も「Play fashion!」を体現していく。
多様な個性が輝く、インクルーシブな職場環境づくり。

— もう一つの柱であるビジネスサポート事業について教えてください。

高橋 ビジネスサポート事業は10年以上にわたり、障がいのある従業員がグループ内の事務、物流、DX、店舗運営などのバックオフィス業務の一部を支援しています。ただ、私たちが重視するのは雇用数を増やすことではなく、多様な人材がそれぞれの特性を活かし、自分らしく活躍できる機会や職場をつくることです。

深川 従業員の皆さん一人ひとりが主役になれる環境づくりですね。

高橋 以前、従業員から「事務作業が中心だと、グループのミッションである『Play fashion!』を実感しにくい」という声が上がったことがありました。そこで、店舗と事務所のハイブリッド勤務を可能にするといった工夫を重ね、「自分たちもファッションの企業で働いているんだ」という誇りや充実感を改めて感じてもらえるような職場環境づくりを進めています。今までにない店舗運営や新たな働き方のスタイルを、まずは私たちWeOurが先陣を切って実行したいですね。

深川 将来的には、多様な働き方や事業モデルを新たなスタンダードとしてグループ全体に展開し、すべての従業員がより一層ワクワクしながら働ける環境をつくります。このような新たな取り組みや価値観を社外のステークホルダーの皆さまにもご理解いただく際に、高橋と常に話しているのは、

やはり「お客さまからの支持」を得られるか、という観点です。

高橋 大前提としてお客さまからの支持がなければ、どんな事業もビジネスとして持続していきません。私たちが何か戦略や施策を考える上で、常にベースにあるのは「店舗スタッフがお客さまにどう説明するのか」ということ。従業員一人ひとりが伝道師としてグループの想いを体現できるような組織を目指していきたいです。

深川 まさにその通りだと思います。WeOurが実行している先進的な取り組みや、グループとして大切にしている想いを社内外に情報発信していくことは、私たちサステナビリティ推進室の重要な役割の一つです。現場での活動と私たちの情報発信が密に連携することで初めて、企業としての姿勢が正しく伝わると考え、情報開示の充実度を高めています。



WeOurの事業概要図





ファッションの無限の可能性を、すべての人に。
あらゆる垣根を越えて、
誰もがワクワクできる場所であり続けたい。

— WeOurの事業を通じて、ファッション業界や社会にどのような影響を与えていきたいとお考えですか？

高橋 私は、店舗にもっと色々な人が働いていてもいいのではないかと考えています。老若男女のみならず、あらゆるハンディキャップや信条・嗜好など、どんな人でも輝ける店舗が実現できることを社会に示したいです。ファッションとは、本来は無限の組み合わせを楽しむものだと思います。新しいもの・古いものといった枠にとらわれず、お客さまにとって魅力ある商品を揃えること。そこから生まれるお洋服の組み合わせや関わる人とのつながりといったワクワクを、働く従業員も、お客さまも、誰もが感じられる場所にしたいです。このような理想の実現を阻むものは、「お客さまはこう考えるだろう」「障がいのある方にはこの仕事は難しいだろう」という固定観念なのかもしれません。事業を通じて、そうした垣根を一つずつ越えていくことが私たちの使命だと考えています。

深川 当社グループは、今ある当たり前に対しても、より良いものがあれば受け入れ、変化することで成長してきました。今後もWeOurでの事業はもちろん、グループ全体としても新たなシナジーを生み出していきます。そしてファッションという、人々の生活を彩り人生を豊かにする事業に携わる者として、次世代を担う従業員にも、自分たちの仕事に誇りを持ってこの想いをつないでいてもらいたいです。お客さまや地域社会から信頼され、なくてはならない存在であり続けるために、できることから一歩ずつ取り組んでいきます。

— 最後に、ステークホルダーの皆さまに向けてメッセージをお願いします。

高橋 WeOurの成長戦略のベースは、私たちからお客さまに出向く機会を増やすことで、商品・サービスはもちろんのことイキイキと働く従業員がいることも知っていただき、地域の皆さまから信頼されるビジネスを着実にやっていくことです。当社グループには様々な歴史がありますが、いつの時代も「あなたに会えてよかった」「あなたがいるからお店に来たんだよ」とお客さまに言っていただけの存在でありたいという想いは、私たちの原点であり、未来においても変わることはありません。それこそが、私たちが事業を行う理由そのものですからね。だからこそ、その想いを忘れずチャレンジすることを恐れずに、ファッションが持つ「世の中を変えるチカラ」を信じて、これからもお客さまと一緒に新しいスタンダードを創っていきます。

深川 高橋との対談を通じ、改めてWeOurとグループとのシナジーは非常に大きいと感じました。WeOurで生まれた新たな価値や成功事例を、グループ全体はもちろん社会にも波及させていくためには、何より「共感」が重要だと考えます。サステナビリティは社会や環境、未来世代にとってより良い世界を築き上げていくためのワクワクする活動です。私たちはサステナビリティ推進室としてWeOurの掲げるビジョンや想い、挑戦していくことの意義を社内外に発信し、ステークホルダーの皆さんから共感され、ワクワクする未来を共創してもらえるような働きかけを続けていきます。